

図の上部には、次の文がある。

はしかよつじょうき
麻疹養生記

とうねんましんりうこう
当年麻疹流行する事広大にして一生の大厄〔厄〕なり 先初りは気分あしくことに咽

かはき湯水を
ゆみず

のみ
呑たがり候共水は一切呑べからず三日四日めにして発するなり五六日めには絶食に相成

候とも決して
けつ

しんばい
心配すべからず十二日を経候は、全快する也当年は夏氣に候ゆへ別に熱強

はらくだ
腹下り候ともかならず案ずべからず全快の後養生專一に風に吹れぬ

だいじ
よふう大事にいたし候は、後々の患これなしすこしもうたがふこと

りうこう
なかれむかしよりはしか流行する事左のごとし

一・天平九年はじめては
しかはやる千百廿四年になる

一・享保十五年 同 百三十三年になる

一・長徳四年はしか
はやる八百八十一年になる

一・宝暦三年 同 百十年になる

一・文明六年 同 三百九十四年になる

一・安永五年 同 八十七年になる

一・永正四年 同 三百五十九年になる

一・享和三年 同 六十年になる

一・慶安三年 同 二百十三年になる

一・文政七年 同 三十九年になる

一・元禄三年 同 百七十二年になる

一・天保七年 同 二十七年になる

一・同四年 同 百七十二年になる

一 文久二年五月はやる

禁物

一 ぼう事じ一 入湯にうとう一 灸治じうぢ一 さけ一 そば一 大食たいしよくのあいだわるしいづれも七十五日

一 さかやき一 かは魚うほ一 梅干うほ一 ごぼう一 とうなす一 なす一 なし

一 そらまめ一 さととも一 ぬかみそ漬つけ一 からきもの一 しいたけ一 干ほしのり

ほうれんそう一 ねぎ一 もろこし一 あぶらぎもの一 こんにやく
右十八品五十日ほどわるし

能もの

一 かんひょう一 にんじん一 とうがん一 大だいこん一 きりぼし一 ひば

一 どせう一 さつまいも一 ながいも一 ゆり一 ほしうんどん

一 みそつけ一 しらほ一 あづき一 さとう一 かたくり

一 むぎ一 いんげん一 やきぶ一 ゆば一 あらめ

一 こんぶ一 ひじき

右みぎ之分ぶん少々せうせうつゝはよきといへどもたんとは御ご無用むようなる

ぐくはやきしほにてしらかゆをもちゆべし